

令和7年度学校評価アンケート 考察

生徒アンケートについて

本年度のアンケート結果から、学校生活の充実度は高く、「学校生活は楽しく充実している」肯定的94%、「学校行事に意欲的」96%と、多くの生徒が前向きに学校生活を送っていることが分かりました。人間関係や規範意識では、「仲間への思いやり」98%、「助け合いを大切にしている」97%、「いじめや差別のない生活」96%、「公共のルールやマナー」98%と、安心・安全で落ち着いた学校風土が形成されています。学習面では、「授業はわかりやすく工夫されている」90%、「授業に積極的に参加している」89%、「タブレット活用に積極的」91%と、授業改善やICT活用の取組が一定の成果を上げています。一方で、「授業内容を十分に理解」84%、「授業の振り返りを学習に活かす」76%は、今後さらなる授業改善を進めることで生徒の理解に繋げていきます。生徒支援に関しては、「先生に気軽に相談できる」77%であり、概ね良好ではあるものの、より相談しやすい環境づくりの推進が望まれます。主体的な学び・社会性の面では、「読書を意欲的に行う」72%、「キャリア・進路学習に臨む」74%、「地域ボランティアや行事に参加」37%が今後の重点課題です。学校図書館の活用促進、地域連携行事の機会拡大、職業講話や体験活動の充実などに引き続き取り組んでいきます。

保護者アンケートについて

学校生活の充実90%、行事・生徒会活動89%、健康・安全配慮92%と、学校運営は概ね高く評価されました。人間関係・規範面でも、思いやり97%、公共ルール97%、いじめや差別のない生活92%が示され、安心できる環境です。一方、学習面は授業の雰囲気88%に対し、わかりやすさ81%、相談体制84%で、改善していく必要があります。課題は読書56%、家庭学習72%、地域活動27%です。図書館活用や学習習慣化、地域連携の機会充実を進めます。

教職員アンケートについて

情報提供100%、授業の工夫100%、学習規律97%に加え、生徒主体やいじめ・差別防止も100%と、教育活動の基盤が高い評価でした。保護者連携97%や小中一貫の推進94%も着実に進んでいます。一方で、ICT活用78%、学校図書館活用44%、地域・SDGsへの働きかけ66%は改善していく必要があります。報告・連絡・相談84%、振り返りによる授業改善91%など内部の連携と質向上も強化していきます。

「わからない」生徒を見逃さない84%、勤務満足度84%の向上にも取り組みます。引き続きPDCAを徹底していきます。

生徒・保護者・教職員の結果を総合すると、学校生活の充実や人間関係の良さ、公共マナーの定着が共通して高く評価されました。一方で、読書習慣や家庭学習、地域活動の参加、ICT活用、図書館利用、相談体制の強化が三者に共通する課題として示されています。今後は学習習慣やICT・読書環境の充実、地域との連携強化を進めていきます。